

第1章 調査概要

1. 調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される家庭系ごみ（可燃、雑がみ）、事業所などから排出される事業系ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

2. 調査実施内容

① 事業系ごみ

- 【実施日】 令和2年7月30日（木）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【採取量】 200.4kg
- 【気温（平均）】 23.8℃

② 家庭系雑がみ

- 【実施日】 令和2年7月16日（木）
- 【調査場所】 市内古紙再生業者
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【採取量】 359.0kg
- 【気温（平均）】 21.5℃

3. 調査手順

（1）試料の回収

① 事業系可燃ごみ

事業系可燃ごみを収集し、弘前地区環境整備センターへ搬入してきたごみ収集車から市職員が試料を取り出す。

② 家庭系雑がみ

古紙再生事業者のもとへ持ち込まれた雑がみの中から、古紙再生事業者の協力により試料を取り出す。

（2）分類及び重量の記録

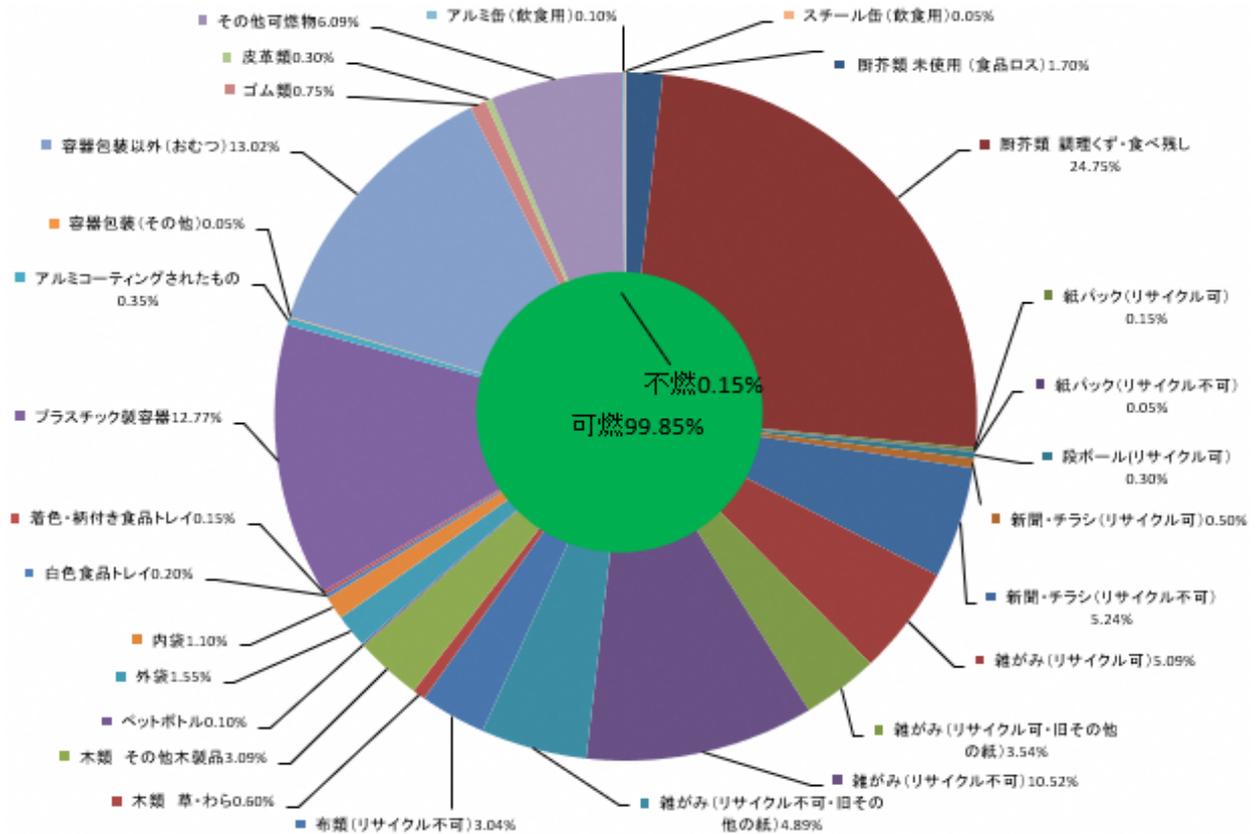
搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

第2章 調査結果

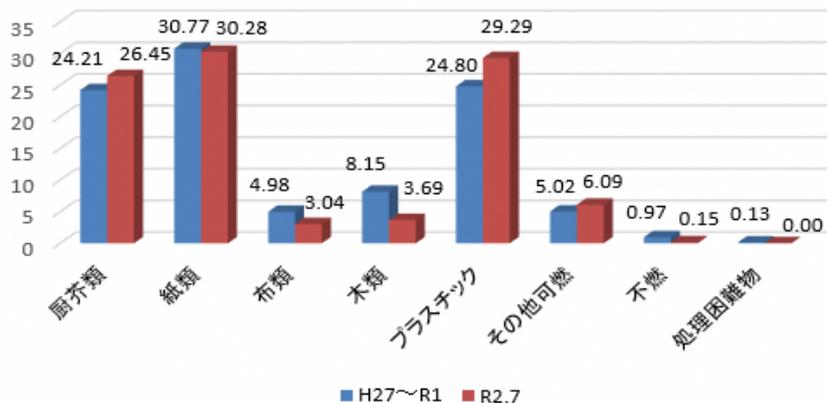
① 事業系可燃ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(30.28%)、「プラスチック類」(29.29%)、「厨芥類(生ごみ)」(26.45%)、の3種であり、全体の約 86.02%を占めていた。個別に見ると、厨芥類(生ごみ)「調理くず・食べ残し」(24.75%)、プラスチック類(容器包装以外)「おむつ」(13.02%)、プラスチック類(容器包装)「プラスチック製容器」(12.77%)、紙類(雑がみ)「リサイクル不可」(10.52)の割合が高かった。



家庭系ごみ組成分析調査結果比較



② 家庭系雑がみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。
 割合が高かったものは「雑がみ（リサイクル可）」（58.33%）、「新聞・チラシ（リサイクル可）」（20.39%）、「雑がみ（リサイクル可・旧その他の紙）」（19.72%）の3種で、全体の98.44%を占めていた。

